

# 令和元年度 栃木市教育研究所研究員研修会 研究記録カード

|                      |                            |                   |                        |
|----------------------|----------------------------|-------------------|------------------------|
| 1 部会名                | 児童生徒指導 部 会                 |                   |                        |
| 2 研究員<br>所員<br>◆：代表者 | ◆鈴木 彩子<br>・長島 裕志<br>・上野 知哉 | ・生井 沙織<br>・渡辺 裕太郎 | 所員<br>・篠崎 智延<br>・高瀬 智行 |



## 3 研究テーマ

不登校児童生徒への支援と関わり方

## 4 研究の取組

### (1) 研究内容

- 不登校児童生徒の実態把握
  - 各校における実態調査（不登校事例、不登校児童生徒への対応）
  - 適応指導教室の見学（実態、関わり方、学校への要望等）
  - 児童生徒のインターネット利用の実態調査（不登校との関わり 等）
- 別室登校の様子について調査
  - 各校の実態、関わり方 等

### (2) 研究計画

| 月 日    | 研修内容                       | 月 日    | 研修内容        |
|--------|----------------------------|--------|-------------|
| 5月13日  | 研究テーマ・内容の協議、計画作成           | 12月10日 | 調査結果から考察・協議 |
| 6月25日  | 研究内容について協議                 | 2月6日   | 1年間の振り返り    |
| 8月     | 適応指導教室見学<br>各学校における取組や実態調査 |        | 次年度の構想      |
| 10月17日 | 調査内容の確認と今後について協議           |        |             |
| 10～11月 | インターネットについての実態調査           | 2月21日  | 1年次経過報告提出   |

## 5 研究の成果と課題

- 適応指導教室の見学や各学校の実態調査により、不登校児童生徒の実態や対応のあり方（校内体制等）を知り、不登校に対する考え方などを改めて見直すことができた。また、適応指導教室と連携をしていくことの重要性や連携していく上での問題点など（関わり方や考え方の違い）にも気づくことができた。
- 不登校児童生徒への支援の在り方について新しく指針が策定されたことを確認し、今後の対応について考えることができた。
- 不登校の直接的な要因とはいえないが、ネット依存を含むネットトラブルも児童生徒指導上大きな課題であることがわかった。
- 児童生徒の居場所をつくることや不登校を未然に防ぐことの大切さを改めて感じた。

## 6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

- 不登校児童生徒への対応の在り方（未然防止も含む）
  - ・別室登校の在り方など校内の体制づくりについて
  - ・適応指導教室との連携の在り方